

## キーワード14 枠組（フレーミング）・先入観

服装が乱れている中学3年のDさんとEさんが、2年のクラスをのぞいているところに、F教諭が通りかかった。

F教諭：「何を悪いことしようとしているの、だめよ。」

Dさん：「なんでだよ。」

F教諭：「だって、2年生を呼び出すんでしょ。」

Eさん：「なぜ、呼び出すってわかるのよ。」

F教諭：「そういうその態度、いかにも呼び出す感じじゃない。」

Dさん：「先生ってすぐ服装や態度で判断するから嫌だよ。」

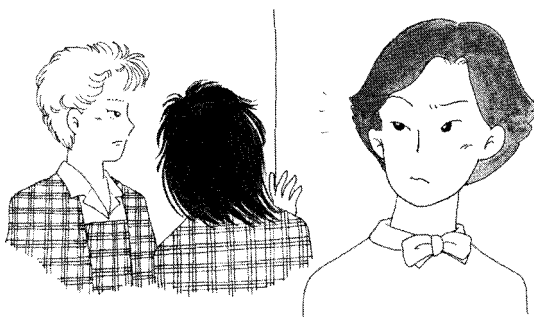
F教諭：「だから、いつも服装や態度は大切って言ってるじゃない。」

Eさん：「そういうことでしか、私たちを見れないの。」

F教諭：「そうだよ、嫌だったら気を付けるべきじゃない。」

Dさん：「すぐ、人を悪者扱いして、むかつく。」

F教諭：「何よ、その言い方は。それが教師に向かって言う言葉なの。」



この事例では、教師は服装や態度から「呼び出す」と決めつけた見方をしています。それが「何を悪いことをしようとしているの。」という教師の言葉になって表れ、子供が初めから反発しています。

### 自分の尺度で子供を見ない

教師は、子供を自分の価値観や固定概念で見えてしまいがちです。自分の尺度だけで子供を見ると、子供の気持ちと指導の間にズレを生じてしまうことがあります。教師はこのような枠組や先入観ではなく、子供をありのままに見ることが大切です。

### 教師によって子供の見方が異なる

よく教師のそばに来る子供を「好感がもてる」とプラスに受け止める教師と、「ベタベタしている」とマイナスに受け止める教師がいます。

人は、それぞれ自分の経験によって、自分自身の価値観や子供に対する見方の「枠組」をもっています。その「枠組」によって子供たちを見るために、一人一人の見方が違ってきます。

### 多角的に子供を見よう

今日の子供は、昨日の子供とは違います。また、授業では興味を示さない子供が、行事では生き生きと活動するなど、時間や活動場面によって子供の表情や情緒は変わってくるものです。そのため、一場面での子供の態度や行動だけで判断すると、指導を誤ることになりがちです。

子供を多角的に見るためには、自分の枠組にとらわれず柔軟に子供を見ることが大切です。